

2024年12月25日【文教はぐくみ委】文化市民局／理事者報告「京都市男女共同参画センター・ウィングス京都の今後の方針（案）について」

*京都市の説明

（→工藤・共生社会推進室長）京都市男女共同参画センターは、京都市の男女共同参画の推進拠点として、併設する京都市中央青少年活動センターとともに市民の皆様にご利用いただいております。一方、開館から約30年が経過し、社会環境が大きく変化するなか、市民ニーズが多様化しており、さらなる男女共同参画の取組の推進を図るためには、これからの時代を見据え、魅力ある施設を目指していく必要がございます。今回、令和4年度に実施しましたサウンディング型市場調査の結果等も踏まえ、以下の通りウィングス京都の今後の方針（案）をお示しし、取組を進めてまいりますのでご報告いたします。

1、ウィングス京都を取り巻く環境でございます。（1）ウィングス京都は、男女共同参画に関する講座や相談事業の実施、図書情報室をはじめとする男女共同参画に関する様々な政策の取組の情報収集や提供、女性グループや団体等の自主的活動の場の提供などの機能を有しており、多くの市民にご利用いただいております。（2）平成6年の設置から約30年が経過し、人口減少や少子高齢化、人生百年時代の到来、デジタル化の進展、コロナ禍における女性の貧困問題など、社会環境は大きく変化し、市民ニーズも多様化してきている状況でございます。

2、施設の利用状況等でございます。（1）来館者数につきましては、下表の通り、コロナ禍において来館者数が一時減少したものの、令和5年度には約34万人もの来館者があり、徐々に回復しつつある状況でございます。（2）利用者層につきましては下表の通り、年齢層は40代以上が全体の約80.4%を占めており、若年層の利用が少ない状況でございます。立地の良さや中央青少年活動センターを併設している環境が生かしきれて

いない現状がございます。2ページをご覧ください。（3）貸館施設の日数、稼働率につきましては、下表の通り7割～8割程度となっているものの、施設ごとに差が生じており、稼働率が低調な貸館施設もある状況でございます。

3、サウンディング型市場調査の結果でございます。（1）提案募集期間につきましては、令和4年6月10日～9月30日までとなっております。（2）調査対象エリア、（3）サウンディング項目につきましては、記載の通りでございます。

（4）調査の結果概要でございます。不動産業、コンサルタント業、サービス業や建設業の民間事業者6社から、事務所、社会福祉施設、飲食や物販等の施設にかかる提案がございました。箱書きの中に主な提案内容と提案概要を記載しております。主な提案内容としましては、カフェやレストランなどの飲食スペース、物販、レンタルオフィス、コワーキングスペース、社会福祉施設などがございました。提案概要につきましては、女性の社会進出を応援できるような仕組みづくりに関すること、ベンチャー企業やスタートアップ事業を考えている方向けのアプローチなど企業誘致に関すること、子どもも楽しめる空間作りなど多世代交流に関すること、公園での子ども向け集客イベントやマルシェの実施など公園との関連に関すること、などの提案をいただきました。3ページをご覧ください。

4、サウンディング型市場調査後の検討状況でございます。（1）民間事業者の提案を踏まえまして、賑わい創出のためのスペースや、これまで利用の少なかった世代へのアプローチにつながる親子が集える空間などの具体化について、引き続き事業者と意見を交わしながら本市において検証を継続してまいりました。（2）また、施設の稼働状況、施設の老朽化への対応や、ウィングス京都の効率的かつ効果的な事業運営につながるレイアウトのあり方についても継続して検討を行い、

（3）ウィングス京都の周辺の関係施設や周辺地域との交流機会の創出についても検討を重ねて参りました。

5、利用者ニーズの状況についてでございます。利用者ニーズを把握するため、令和6年8月6日～9月30日にかけて、ウイングス京都をご利用いただいている方々に（3）のアンケート項目に基づきアンケートを実施いたしました。

（4）主な回答内容でございます。魅力を感じている点として「立地が良く利便性が良い」という回答が最も多く、ウイングス京都の優れた立地環境が1つのポイントとなっております。また、どのような施設機能があったらいいかとの問いに対しては、「カフェなどの飲食スペース」や「市民のためのフリースペースの設置」について多くご回答をいただきました。最後に、多くの方に利用してもらうためにはどういった取組や機能が必要かという問いに対しては「誰でも気軽に利用できるレストランやカフェの充実」「トイレの洋式化や自動水洗などのトイレの充実」「集客につながるようなイベントの実施」といったご意見をいただいたところでございます。これらの結果を参考に、施設の機能や施設運営の充実に努めてまいりたいと考えております。

6、京都市男女共同参画市民識調査の結果でございます。こちらは、本市における男女共同参画に関する市民の意識や日常生活の状況等を把握し、本市が取り組む課題と今後の施策の方向性を明らかにすることを目的に、令和6年10月18日～11月6日にかけて18歳以上の市民の方を対象に実施いたしました。なお、アンケート項目につきましては、ウイングス京都に関する項目を抜粋して記載しております。（3）アンケート項目及び回答でございますが、あなたはこれまでウイングス京都を利用したことがありますかという問いに対しては「知っているが利用したことはない」という方が30.6%、「知らない」という方が59.1%という結果になりました。あなたがウイングス京都を利用されない理由は何ですかという問いに対しては「利用目的がない」という方が69.5%、「利用する機会がない」という方が40.3%という結果となっております。結果とい

たしましては、ウイングス京都の認知度は高いとは言えず、市民にとって身近な施設となっていない現状があるものと認識しております。続いて4ページをご覧ください。

7、今後の方針案でございます。サウンディング型市場調査の結果等も踏まえ以下の通り検討してまいりたいと考えております。（1）男女共同参画社会をより一層推進していくためには、ウイングス京都の優れた機能を維持しつつ、中央青少年活動センターを併設していることも生かして若い世代を含む多くの方々に施設を知っていただき、多様な方々に施設を活用いただくことが重要であると考えており、前例に捉われない民間事業者の自由な発想やノウハウ等を積極的に取り入れ、多くの方々が集える施設を目指してまいります。（2）ウイングス京都のより効率的効果的な運営を目指して施設のレイアウトを見直すことで、より多様な方々の交流を生み出し賑わいを創出するとともに、男女共同参画や女性活躍に資する機能の充実を図ってまいります。（3）中央青少年活動センターや、様々なノウハウを有する民間事業者と連携し、施設の活性化を図ることにより男女共同参画社会の実現のための取組をさらに推進してまいります。（4）ウイングス京都と周辺の関係施設や周辺地域との交流を促進することで多様な世代が集える場を創出してまいります。

最後に8、今後のスケジュール案でございます。令和7年2月市会に、ウイングス京都にかかる関係予算を提案させていただき、令和7年度中に民間事業者をプロポーザル方式により公募し、選定してまいりたいと考えております。京都市男女共同参画センターについて、これまで以上に多くの方に利用していただき、賑わいのある施設にしていくとともに、さらなる男女共同参画社会の実現に取り組んでまいりたいと考えております。私からの説明は以上でございます。

* 議員による質問

◆津田委員（自民）私から何点か質問させていただきたいと思います。このウイングス京都は、先

ほども説明ありましたが開館から30年を経過してるというふうに思います。で、これ、もうご存知の方少なくなったか、元々は中京区役所でございます、改めてね、もう40年ぐらい前ですかね、中京区役所が移ったのは。まあいろんな経過があってこのウイングス京都になったと思うんですけども、どういった経過で開館に至ったのかお聞きをしておきたいというふうに思います。また、その中で、どういった役割を果たしてきたか、どのような成果をあげてこられたか、お聞かせいただけますでしょうか。

(→工藤・共生社会推進室長) はい、ウイングス京都の設立の経過等についてでございます。ウイングス京都は、女性の自立と広範な社会参加を総合的に支援するため、平成6年に設置したところでございます。

この間、国におきましては、平成11年に男女共同参画基本法、平成27年には女性活躍推進法が制定されまして、女性の社会進出が進展する中、ウイングス京都は本市の男女共同参画計画を推進する中核機関として、重要な役割を果たしてきたところでございます。具体的な事業といたしましては、男女共同参画などの基礎講座を始め女性活躍推進セミナー、男性の家事育児参画講座など、多くの講座やセミナーを開催しております。年間2400人を超える方に受講いただいております。

その中でですね、女性の有業率であったり、男性の育休取得率は着実に増加しているという状況でございます。特に京都市に至りましては令和2年度、育児休業取得率が36.7%であったものが、令和5年度には88.2%と大きく増加しております。また、女性の日常生活の悩み事やDVに関する相談の対応はもとより、男性相談の窓口の設置、啓発冊子などによる情報発信、活動の場の提供など、男女共同参画施策の推進に大きく寄与してきたものと考えております。以上でございます。

◆津田委員(自民) 分かりました。今、男女共同参画の推進する中核機関としてというふうなお話でございました。特に男性の育児取得率、これは私20年以上前に代表質問した時に、確か0.3%だったというふうに記憶しておりますが、それは80%を超えるということでございますので、すごく充実したのかなというふうに思っております。ただ、この事業運営は行方あたりね、いろんな課題もあったというふうに思います。今の報告においても、この施設がですね、あまり認知をされていないと、あるいは利用者層にもかなり隔たりがあるという説明があったというふうに思います。施設自体はもう30年ということもあって老朽化が進んでいるということだと思います。今回、ウイングス京都の新たな方針が示されたんですが、どういった点を課題として認識されておられて、どういった検討を進めてこられたのか、また、この課題を踏まえてどういう取組をされるのか、お聞かせいただけますでしょうか。

(→工藤・共生社会推進室長) はい、津田議員ご指摘の通り、築30年と、長年施設を運営してきておりますが、施設の認知度が広がっていないこと、施設の老朽化も進んでおりまして、その点につきましては課題ということで認識しております。さらに利用者層につきましても、年齢層に偏りがあることなど、幅広い年齢層にご利用いただけておらず、会議室利用やスポーツ関連施設等の利用者が固定化しているというふうなお話もお伺いしております。

また、報告にもあります通り、令和6年度に行いました市民意識調査におきましては、まだまだ認知度も低く、気軽に立ち寄る施設にはなっていないと、そういった現状を改めて感じたところでございます。申し上げたような課題認識の下です、ウイングス京都の持つ優れた機能を維持し、中央青少年活動センターを併設するメリットも生かしながら、さらには民間事業者の優れたアイデア等も積極的に取り入れ、施設の賑わいを創出することで、若年世代も含めですね、多くの

方々にとってですね、身近な施設になるように取り組む必要があると考えております。

合わせて施設の老朽化の問題もございます。これにつきましては、現在ご利用者の方に少しちょっとご迷惑をおかけしておりますが、1階の天井の耐震改修であるとか、外壁の改修工事などにも取り組んでございます。また、アンケートにもありました通り、トイレの充実といったようなご指摘もありますので、そういった設備面に対するご意見もですね、しっかりと認識しながらですね、取組を進めてまいりたいと考えております。

◆津田委員（自民）分かりました。ま、正直ね、この立地条件でね、認知度が低いというのは、非常に残念なことですし、この老朽化についての課題ってというのは、本当にしっかりと取り組んでいていただきたいというふうに思っております。ここでね、改めてウイングス京都はですね、「行財政改革計画」においても「見直し」という対象になっていたというふうに思いますが、その点についてはその後どういう検討経過になっているのかを聞かせていただけますか。

(→工藤・共生社会推進室長) はい、「行財政改革計画」策定以降の検討経過でございます。ウイングス京都につきましては、今、議員ご指摘の通り、令和3年8月策定の「行財政改革計画」におきまして、「民間移管・存廃や、必要な機能に応じた施設のあり方を検討すべき施設」として位置付けまして、令和4年3月の「持続可能な施設運営に向けた保有量の最適化方針」の中で、施設の魅力向上につながるような有効活用の可能性も含め施設のあり方を検討してきたところでございます。

その後、サウンディング型調査であるとか、利用者アンケート、市民意識調査なども実施しまして、多様な視点に基づき検討を継続いたしまして、本年9月には「行財政改革計画の総括」を経て、今回「ウイングス京都の今後の方針（案）」の提示に至ったところでございます。

ウイングス京都につきましては、その優れた機能を生かしながら、若者世代も含めより多くの方々に利用いただける公共施設として、民間活力も導入しながら、男女共同参画や女性活躍に資する機能のさらなる充実を図ってまいりたいと考えております。以上でございます。

◆津田委員（自民）今、賑わいも創出しと話もあったと思いますが、多くの方が新たな施設を目指すということで、民間事業者のノウハウを活用するということでしたけれども、それでは今までのそのウイングス京都、あるいはこの青少年活動センターの機能はどういうふうになっていくのかということがあると思います。また、施設のレイアウトも見直すという説明があったと思いますが、そのことによってこの施設本来の機能が縮小してしまっただけでは意味がないのではないかと考えております。またただ一方でね、今のお話、民間が参入するというのであれば企業としての採算性も考えなければならないと思いますし、そういった整合性についてはどういうふうに考えておられるのか。男女共同参画の推進や青少年の健全育成のための施策の推進につながる事業が望ましいというふうに思いますけれども、この辺どういうふうにお考えなのかお聞かせください。

(→工藤・共生社会推進室長) はい、民間事業者の活用と施設機能の両立についてでございます。ご指摘いただきました通り、ウイングス京都や中央青少年活動センターの本来機能を維持して向上させていくということは最も重要であると認識しております。その中でですね、令和4年に実施しましたサウンディング型調査の対象となりました1階及び2階の一部を中心に、施設のレイアウトや事業の方向性について検討していきたいというふうに考えております。検討を進めるにあたっては、ウイングス京都のより効率的効果的な運営に向けた視点であるとか、現状貸館機能と昨今の市民ニーズに関する視点、多様な方々が交流し施設全体の賑わいの創出に向けた視点や男女共同参画

にする機能の充実に関する視点、こういったものを中心にしてですね、検討を進めてまいりたいと考えております。

その中で令和7年度中にプロポーザルを実施しまして、民間事業者から様々なアイデアやノウハウを募集しまして、事業者をですね、選定することで、それぞれの機能をですね、しっかり連携基盤を整えまして、けっして営利目的ではなく市民の皆様の新たな交流拠点としての役割を発揮できるようにしていきたいと考えております。

◆津田委員（自民）分かりました。まだね、細かいことというのはこれからということだろうというふうに思いますし、その細かいことの質問しても仕方がないかなというふうには思うんですけども、今も言っていましたように、このプロポーザルにかかるね、募集のこの要綱の策定等にあたってはですね、しっかりと今の言われた視点に基づいて、機能のさらなる充実につながるようお願いをしたいと思います。で、この施設機能の充実と合わせて、このウイングス京都とその周辺施設等の交流促進についてということであらうというふうに思いますが、これは一体どういうふうな取組か教えていただけますか。

(→工藤・共生社会推進室長) はい、ウイングス京都と周辺施設との関係でございます。ウイングス京都におきましては、ご承知の通り、御射山公園であったり、高倉小学校を隣接しておりますが、これまでですね、所管する建設局であるとか教育委員会との連携を含めて、このような優れた立地を生かした取組がですね、十分に行えていなかったというふうに考えております。今後、民間活力の導入を契機といたしまして、ウイングスはもとより、周辺の公共施設ともつながる新たなエリア、公共空間作りに貢献してまいりたいというふうに考えております。

◆津田委員（自民）分かりました。御射山公園とかあるいは高倉小学校、建設局が教育委員会が所

管されてますけども、こういった連携ってというのは新しい発想であって、大変良いというふうに思いますけれども、一方で、それを進めるにあたっては、やっぱり地域のね、皆さんの声っていうのが、そういうのをしっかりと取り入れていただいて、地域も協力していただくような、そういう丁寧な対応していただきたいというふうに思いますし、また、このウイングス京都の周辺には今おっしゃった公園とか学校もありますけれども、民間の錦市場とかですね、大丸の京都店もございますし、また、いろんな商業施設ございます。また少し離れますけれども漫画ミュージアムとか、京都芸術センターなど、そういったものも点在をしているということでございますので、こういったこの公園とか学校、またその周辺施設ともしっかりと連携してですね、ここ拠点にして地域が活性化するように取り組んでいただきたいと思いますが、何かお考えを聞かせただけならと思います。

(→工藤・共生社会推進室長) はい、ウイングス京都と周辺商業施設等との連携でございます。新たな取組を進める上でですね、地域住民の理解と協力ということはですね、けっして欠かすことができないものと考えております。それらのことをですね、しっかり念頭に置きながら取組を進めてまいりたいと思います。また、津田議員ご指摘の通り、ウイングス京都の周辺にはですね、様々な商業施設、そして公共施設が存在しております。御射山公園や高倉小学校との連携をですね、きっかけとしまして、地域住民の皆様のご理解も得ながらですね、将来的には周辺の商業施設とも連携を深め、エリア全体の活性化につなげてまいりたいというふうに考えております。以上でございます。

◆津田委員（自民）本当にですね、先ほど最初にも冒頭にも申し上げましたように、こんなに立地のいい場所ってのは他になかなかないんじゃないかなというふうに思いますし、そしてせつかくのね、いい施設があっても、ご利用者が偏っていた

りとかですね、いろんな方がご存知ないというのは非常に残念なことだというふうに思います。もう少しね、気軽に入りやすいような雰囲気整えていただいたり、皆さんがですね、ここにあって本当に良かったなというふうになるような、核となるような施策を進めていただくよう求めて終わります。

(→山本・文化市民局長) いま津田議員のほうからもご紹介がございました通り、このウィングス京都、設立の時からですね、非常にご利用もいただきまして、男女共同参画の中で特に最初のほうは女性のお困り事の相談であったりとか、女性の活躍、こういった視点で使っていただいていたんですけども、男女共同参画という意味では男性の困り事、そして男性の活躍についてもぜひお使いをいただきたいというふうに思いますし、また、青少年活動センターがせっかくあるということで若い方々でどこに相談していいかわからないというような方々についても気軽にご利用いただきたいというふうに思っております。そういう意味でもご指摘いただきました、こんなに利便性のいい場所にあるというのに知られていない、もしくは知ってるけれどもなかなか入りづらいというようなご意見のかなというふうにも思っておりますので、公園や小学校もあるというこういった利便性も含めてですね、誰もが気軽に利用していただける、そういったことを民間の力もお借りしながら進めてまいりたいというふうに思っております。

◆江村委員(維新・京都・国民) 私からも何点か質疑をさせていただきたいと思います。まず今回の報告にあたって、調査された内容もご報告がありましたけれども、利用者層のところですね、10代からこう70代というふうに分けてみた時に、どうしても40代から70代のところが全体の8割を占めていると。で、10代から30代のところが非常に少ないということで、ここはここで解決していくべき課題だと思います。で、一方

で、ここに載っていないんですけども、性別に関しては今回取られたのか。これについて確認させていただきます。

(→工藤・共生社会推進室長) はい、性別についても確認させていただいたところでございます。

◆江村委員(維新・京都・国民) はい、それでは今後の参考に資料でいただきたいと思っております。で、取った上でですね、資料もいただきたいんですけども、その利用者の状況としては、だいたい男女比どのぐらいでしたでしょうか。

(→工藤・共生社会推進室長) はい、あのすいません、ちょっと今正確な数字をがあれなんですけど、やはり女性のほうがかなり割合としては大きい状況ということで、また資料のほうでお示しさせていただきますと思います。

◆江村委員(維新・京都・国民) はい、私ももう時折ウィングス京都さんのほうで伺わしていただいて、その施設の利用状況を拝見させていただくと、非常に女性をお見かけすることが多いので、私もやっぱり肌感覚として非常に女性利用者が多いのだろうなという認識をしていたところで。その上で、今回4ページ目のところで「今後の方針」というところで書かれているところを見ますと、(2)のところ「男女共同参画や女性活躍に資する機能を充実を図っていく」と書かれてまして、先ほど局長答弁の時に「男性の居場所」という意味でもおっしゃいましたけれども、ここはあえて今後の方針のところの(2)で特に「女性活躍に資する機能の充実」と書かれたのは何なのか、これについても教えてください。

(→工藤・共生社会推進室長) はい、昨日の充実でございますけど、そもそもウィングス京都につきましては、男女共同参画の拠点、女性活躍を推進する拠点ということでございますので、そのまず基本方針のところは決して忘れることなく、

そこを推進していくことがやはり必要だということで、改めて記入をさせていただいてるところでございます。

◆江村委員（維新・京都・国民）男女共同参画とするならば、やっぱりこう女性だけじゃなくて男性の利用ってというのも同じぐらいあるような状況ってというのが望ましいというところが大前提として感じるところで、で、実際今、こう利用状況を確認されると、女性の利用が非常に多いということが分かっている中で、この男性の利用者を結びつけていくためには、今回の振り返りをしてどのように考えておられるでしょうか。

（→工藤・共生社会推進室長）はい、まず男性の利用と合わせまして、中央青少年活動センターもでございますので、そういった若年層の取り込みということも重要になってくるかというふうに思っております。先ほど局長の答弁にもありました通り、ウイングス京都ではですね、困り事を抱えた男性の悩み事相談ということも行っております。その中でですね、新たな傾向として、今まではDVに関しては女性が受けるというようなこともありました、受けること相談が多かったんですけども、反対に男性側からもですね、自らがDV受ける、もしくは家庭の中で片身の狭い思いをしているというようなところもございますので、それと合わせてですね、市民意識調査の中でも割と若年の男性の方が、昨今の女性活躍の推進を、あまりにというか、その推進を高々に言うがために、少し男性のほうも結構困り事あるんだよってというような自由意見もいただいているところです。そういった意見をですね、参考にしながら、第6次の計画であったり、ウイングスの運営の中ですね、反映させていきたいというふうに思っております。

◆江村委員（維新・京都・国民）はい、今ご紹介いただきました、その辺りはぜひ力を入れていただきたいなというふうに思います。で、合わせて

ですね、ちょっと今回私が特に気になりますのが、男性の定年退職後の居場所です。やはりいろんな地元に戻って接していただいて、退職後のシニア世代の方々と接すると、女性は皆さんでスポーツするような施設に行ったりとか、喫茶店に行ったりとか、いろんな交流を図られている一方で、男性がもちろん、交流の場所に出られている男性もおられないわけではないんですけども、女性と比べて毎日散歩してるっていう方がなんかすごく多くお見かけする印象があるんです。で、どうも他の自治体の取組も拝見しておりますと、男女共に参加可能な講座にするとどうしても女性に偏りがちで、男性が行きにくいと、参加しにくいという状況があるからこそ、男性の居場所作りという側面でも力を入れて、男性を対象にしたパン教室であったりとか、そば打ちであったりとか、グリークラブとか、そういったものの居場所、あえて行政が手を差し伸べることで居場所作りをしていると、そういった機能というのも今回そのウイングス京都さん、男女共同参画センターの方向性について改めて見直しをされるのであれば、ぜひともご考慮いただきたいなというふうに思っていて、この辺りについてのお考えはいかがでしょうか。

（→工藤・共生社会推進室長）はい、様々な居場所の創出ということですが、常に市長も申し上げます通り、全ての人に番と居場所を設けるということでございます。これに関しましては、一局での取組というわけではなくですね、他局も含めてですね、しっかりと取り組んでいくべき課題だというふうに思っております。で、今回ウイングス京都におきましては、施設の内部の改修と言いましようか、賑わい創出だけでなくですね、周辺の公共施設、学校であったり公園であったりの連携を総体、エリアとして盛り上げていこうという取組を考えております。これももちろん構想段階ということはございますけども、その中で例えばですね、公園の中にですね、憩いの場と言いましようか、集いの場を仕掛けを作ったりしてですね、

地域の方々であるとか通りがかりの方にですね、寄っていただいてですね、寛いでいただくというふうですね、これちょっとまだあの今後の構想にはなろうかと思えますけれども、施設単体だけではなかなか難しいと思えますので、エリアとしてどういう居場所を構築していくか、そういったところをですね、検討していきたいというふうに思っております。

◆江村委員（維新・京都・国民）はい、ちょうど答弁で施設の単体だけではない、大きな構想で考えていきたいということをお話いただきましたので、ちょっとこのことにも触れさせていただきたいんですけども、行革計画の際には、それを踏まえて今回サウンディング調査もされたというのが先ほど答弁でありました。一方で、その公共施設の今後のあり方という意味で、直近でこう示された考え方として、全庁横断的な新たな推進体制を構築し、公共資産、公共空間のあり方をより最適なものへ見直していくと、で、合わせて市内のこの地域に何が必要か、何が求められているのかを見極めて配置していくというようなことを踏まえて、この公共施設のあり方を考えていくんだということが示されておりますけれども、こういった点では今回の方針っていうのは一定踏まえられた上でのものとして捉えられるのか、どういう状況でしょうか。

(→工藤・共生社会推進室長) はい、ウィングス京都のあり方につきましては、令和3年度の「行財政改革計画」でお示した以降ですね、継続的に取組を進めておりまして、その中でサウンディング調査を実施しております。サウンディング調査をしまして、その後も市民アンケートをしているということでございますので、今回の出されたおそらく「新京都戦略」の骨子案の今ご紹介であったかと思うんですけども、ウィングスに関してはそれまでから検討を進めて、なおかつですね、今回「新京都戦略」のほうで骨子に示されました、例えば公共資産、公共空間のあり方をより最

適なものに見直すということではですね、今回のウィングス京都のあり方方針を示したものでですね、何ら齟齬がないもの、それに合致したものであるというふうに考えております。

◆江村委員（維新・京都・国民）はい、で、合わせてなんですけれども、今耐震改修が実施されている状況で、ただこのウィングス京都さん自身が築20年以上となる大規模施設にあたりますので、そこの部分も今後考えていかなければいけないと思っております。で、この老朽化への改修っていうのは、点検されてる上で、すぐに必要になる状況なのか、その辺りはいかがでしょうか。

(→工藤・共生社会推進室長) はい、すでにですね、今年度、老朽化対策工事は行ってございまして、耐震とちょっと申し上げましたけど、地震によってですね、天井が、昔の基準で少し脆いっていうようなところもありますので、天井の耐震化に向けた改修っていうところは行ってございまして、合わせて、屋上防水とか外壁工事ですね、そういった工事ですね、来年度2か年にわたってですね、進めているということでございます。

◆江村委員（維新・京都・国民）はい、全体としては老朽化への改修費っていうのはどのぐらいの金額規模になる予定なのか、この辺りはいかがでしょうか。

(→工藤・共生社会推進室長) はい、改修にかかる経費でございます。今後ちょっと数十年にかかるような改修経費につきましては、ちょっと今手元には持ち合わせておりませんが、この2か年にわたる改修の経費につきましては約3億円程度の経費をかけて改修を行うこととしております。

◆江村委員（維新・京都・国民）はい、今の2か年っていうのはもう部分的な話なので、この築20年を超えて今後の一定の規模感の改修になりますと、こういった金額規模では全然済まないよ

うな改修になろうかと思えます。で、だからこそ「行財政改革計画」でも、また、今回の「新京都戦略」のところで、その重要な公共施設としてどうあるべきなのかっていうのを、全体像を持って全庁的に判断しなければいけないという枠組に入っているものですので、ちょっとそういった意味では、今後よりこう方向性として、本当に今向かっておられる方向性ってというのが良いものなのかっていうのは、うちの会派としては慎重に検討させていただきたいなと思っている次第です。

で、合わせて教えていただきたいんですけども、2ページに掲載をされている各施設の稼働率のところですか。ここで見ておきますと、30%～50%台に入っている稼働率のところが多数ございまして、ここはもちろん今後より良いあり方に見直していく必要があろうかと思えますし、加えて、これは今お金を徴収されているところで掲載をされておりますが、例えば1階のところであれば、図書情報室っていうのも、ここのフロアとしてはそれ相当のスペースを取っておりますし、2階のイベントホールもこのホワイエですね、ホールへの入口の通路部分というのは結構なスペース取っておりますし、こういったところも見直しの対象として見るべきだと思いますけれども、この辺りお考えいかがでしょうか。

(→工藤・共生社会推進室長) はい、施設の見直しの視点といたしましては、やはりどれだけの方にご利用いただいているか、もちろん稼働率もございまして、現状におけるその市民ニーズとマッチしているのか、そういった視点も必要かと思っております。ご指摘にありましたここの利用料金を取っていないところの、図書情報室等のお話もありましたけれども、そちらにつきましてもしっかりと利用者の状況ですね、どれだけの方にご利用いただけてるのか、そういった視点もですね、踏まえながら検討していきたいというふうに思っております。

◆江村委員(維新・京都・国民) はい、私も時折ウィングス京都さんを伺わしていただく中で、1階のもうメインになるようなスペースのところには図書情報室がありますけれども、本当に利用されている方が非常に少なく、こんないい場所のこんないいエリアのところ、こういう使い方をしている本当にいいのかっていうのは、もう一市民としても、そして京都市でさせていただいている議員としても、非常に危惧するところです。ですので、ここは本当に今後の施設のあり方をせつかく考えられるタイミングにしっかりとこの利用料徴収されている以外の部分でも、その貴重なスペースをどう活用するのかっていうところは対象に入れてご検討させていただきたいなと思えます。以上で終わります。

◎井上委員長(自民) /先ほど江村委員から要求のありました「性別ごとの利用状況の資料」については理事者提出できますか。

(→工藤・共生社会推進室長) 提出させていただきます。

◎井上委員長(自民) /はい、提出できるということですので、委員会資料として提出を求めることにご異議ございませんか(異議なしの声) はい、ご異議がございませんので、委員会資料として提出を求めるとに決定いたします。理事者におかれましては、なるべく早く提出していただきますようによろしくお願いいたします。

◆やまね副委員長(共産) 私からもいくつかお聞きしたいと思っております。先ほどですね、津田委員(自民)のお話の中で、非常に大事なお話があったと思ひまして、これまでの機能がどうなっていくのかというお話があってですね、「レイアウトの見直しなどで本来の機能が縮小してしまうのでは意味がない」と、私も本当にその通りだと思ひましたし、それから答弁の中では「決して営

利目的ではなく、市民の交流拠点として」というお話もありましたので、ぜひ方向性としてはそういう形で頑張っていたいただきたいと思っております。

で、まずちょっと確認したいのはですね、先ほども「行財政改革計画」のお話があったんですけど、その中の位置付けではですね、「民間移管・存廃や必要な機能に応じた施設のあり方を検討」ということが明記されたということだったんですけど、そういう施設とされたわけですけども、大きな方向としては、施設そのものは今後も存続をすると、公共施設として、で、例えば府の施設と統合したりだとか、売却したりするということはまだありませんと、こういうふうに理解してよかったですでしょうか。

(→工藤・共生社会推進室長) はい、統合等につきましては、現時点で申し上げることにつきましては、あのそういったことは検討はしていないということでございます。

◆やまね副委員長(共産) はい、それで資料のですね、1 ページ目の「施設の利用状況」というところでまずお聞きしたいんですけども、先ほどもありました「40 代以上の利用が全体の約 80.4%」ということで「若年層の利用が少ない」、そして「立地の良さや中央青少年活動センターが併設されている環境が生かしきれてない」ということが書かれております。で、そこですら、この数字の元になったアンケートが、今年 8 月～9 月に実施されたものというふうにこれ書いてあるかと思うんですけども、何人の方が答えられたのかということちょっと確認したいのと、で、この 40 代以上で合計してる理由ですね。男女共同参画推進の事業において、何かこの 40 代以上と以下で、何かそういう区切りになるような施策があるんでしょうか。いかがですか。

(→工藤・共生社会推進室長) はい、すいません、40 代以上というところにつきましては、い

わゆる若年女性と言われるのが 30 代までというところと、それ以上というところで分けさせていただいてるということでございます。

で、調査を行いました人数、アンケートを回答いただきました人数は 82 名ということになっております。

◆やまね副委員長(共産) アンケートの数で言うと 82 名ということですよ。で、このウイングス京都、年間で利用していただいている人数っていうのはもっともっと大きい、多いはずですよ。で、このわずか 8 月～9 月のところだけの 82 名のお話ですので、果たしてこの「利用者層」と言った時に、それが本当に全体を反映してるのかどうかっていうのはちょっと私疑問付がつくところでもあります。

で、この「40 代以上の利用が全体の約 80.4%」という点でもう一つ確認しておきたいんですけども、そもそも少子高齢化が進んでるわけですから、40 代以上の利用者数が多くなるのは当然ではないかと思うんですが、この点いかがでしょうか。

(→工藤・共生社会推進室長) はい、40 代以上が多いのではないかとということでございます。ちなみになんですけども、京都市の統計人口、統計でその辺り見させていただきますと、総数で言うと 40 代以上がだいたい 60%で、10 代～30 代までが 32%程度ということになっておりますので、やはりその点から見ましても、今回のアンケートの年齢層には少し偏りがあるのかなというふうに思っております。

◆やまね副委員長(共産) はい、私もですね、今のそのデータちょっと見させていただいたんですね。京都市の統計ポータルというサイトで年代別人口のデータが載っておりますので、今年 10 月時点のデータ見てみました。

すると、例えばこの資料では利用者層が「10 代 0%」となっておりますが、年代別の人口を見ま

すとだいたい8.4%ぐらいの方がおられると。なのでなかなか10代の方には使っていただけてないというのは確かにそうだと思うんですが、ただこの年代の皆さんはですね、学校とかクラブ活動とか塾とか、色々そういうものもありますし、ライフスタイルの中で京都市に1か所しかないウィングス京都までわざわざ来られるだろうかというのは大変疑問ですので、なかなか利用するといっても難しいんじゃないかなって思うことは思います。

それから20代がですね、これ資料では「6.1%」と。で、これ年代別人口で見ますと13.8%ですので、やはり構成比としては実際におられるよりも利用してる割合少ないっていうのは確かにこれもそうだと思うんです。ただですね、この年代で言いますと、例えば京都市外から来られた学生さんなんかはやはりこの施設を知らない方も多いただろうし、仕事を始めた方なんかはですね、日中に使えるってことはなかなかないと思いますので、やはりなかなか難しい、利用するのは難しい面はあるんじゃないかと思いました。

で、30代はじゃあどうかと言いますと、ここではですね、資料では「11.1%」と。で、年代別人口では10.2%なんです。30代については年代別人口の構成比よりも多い方が利用されてる。で、40代はこの資料では「17.0%」、年代別人口では12.5%ですので、構成比よりも多い方が利用されてる。で、50代はですね「17%」ですね資料では。これ年代別人口データ見ますと14.7%ですので、それほど変わらない、数%程度の差です。で、60代が利用者層で見ると「23.2%」ですが、年代別人口では11.1%と。かなり60代の方がですね、構成比では多い、なっているということです。

で、それから70代以上っていう数字を見ますと、資料で「23.2%」になってるんですけども、年代別人口のデータを計算しますとこれぴったり70代以上で23.2%という数字になりましたので、だいたい京都市に住んでおられる方の割合でちょうど使っておられます。

ですのですね、私これ「40代以上の利用が全体の約80.4%」と、わざわざ太字で下線も引いて強調されてるんですけども、少なくとも70代以上は年代別の人口データとぴったり同じ数字で、50代もさほど変わらない、で、30代については人口構成より多くの方が使っている。確かに先ほどおっしゃっていただいたように40代以上の方の人口が60%ちょっと超えるあたりですかね、で、その方が80%っていうことですので、ちょっとそれより確かに多いんですけども、さほど私はこれはですね、これ本当に極度な偏りがあるっていうふうに見てもいいんだろかということを考えています。で、40代以上ひとまとめにしてですね、「若年層の利用が少ない」というふうにまとめてしまうのはちょっとね、恣意的なものを感じております。

で、次に稼働率のことについて聞きますけれども、直近の令和5年度を見ますと、4階のスポーツルームが99%、会議室2室で88%、2階のセミナー室2室76%、会議室6室で93%、地下1階の会議室3室89%、音楽室94%、フィットネスルームが92%と、この辺り大変高い数字となっています。で、一方で、※印で「太地部分は全室平均を大きく下回っている」ということで、2階のイベントホール45%、そして和室2室が65%、ビデオシアター62%、調理コーナー40%、1階のギャラリースペース38%ということに、令和5年度ですね、なっています。で、ちょっと確認したいんですけども、この表のこの一番右の部分ですね、そこが「直近5か年平均の稼働率」ということで、さらに太い線で囲まれて強調されてるわけですけども、京都市としては、稼働率を見る際に、この5か年平均というのを一番重視されているんでしょうか。いかがでしょうか。

(→工藤・共生社会推進室長) はい、稼働率の考え方でございます。やはり、この間、コロナ禍等もございましたので、年度において大きく稼働率に差があったということもございます。そういう

点では、直近5か年が、京都市として通常使う考え方かと言われると、今回は5か年で取らしていただいたということでございます。

◆やまね副委員長（共産）5か年平均を何か重視してるとか、これを最も大事にしてるということではないですね。

（→工藤・共生社会推進室長）はい、あのちょっとコロナ禍の特殊事情はあろうかと思えますけども、やはりいろんな予算の算定とかで含めて、いろんな視点で考えるにあたっては、複数年で平均を出すっていうのは、一般的に役所の中では使う方法かと思っております。

◆やまね副委員長（共産）はい、で、この表全体を見たらですね、全ての部屋で令和5年度の稼働率がこの「直近5か年平均」を上回ってるわけですね。おっしゃった通り、コロナ禍のやっぱり影響がですね、相当あったかと思うんですね。で、それで利用が落ち込んだんですが、現在ではかなり回復しているっていうことを、今この表からも分かると思うんです。で、さらに見るとですね、直近のこの令和5年度の数字が、コロナ前の令和元年度を上回ってる部屋もいくつかありまして。例えば、地下1階の音楽室91%が94%になっている。フィットネスルームは88%から92%。2階の和室2室が58%から65%。ビデオシアターは42%だったのが62%になっているということなんですけども。ところがですね、そのコロナの落ち込みも含めて5か年平均というところで見ると稼働率が低いように見えるわけで、これこういう、私これも見せ方としてはですね、ちょっとどうなのかなということを感じております。

で、次に、資料の2ページ目の「3、サウンディング型市場調査の結果」として改めて概要がまとめられておりますが、我々としては、極めて公共性・公益性の高いウィングス京都を、営利企業の儲けのために差し出すようなことはやめるべきだということを、この委員会で繰り返し議論をし

てきました。で、重要なことはですね、我々だけが言ってることではなくて、専門家の先生方も言っておられるわけです。京都市男女共同参画審議会の中でも厳しい意見が続出をしておりました。昨年3月30日に開かれた男女共同参画審議会の議事録を見ますと、次のような発言があります。

「国の男女共同参画センターの強化というのは、男女共同参画事業そのものをいかに強化していくかということだと思う。サウンディング型市場調査は、財産価値として有効性を発揮していこうというもので、趣旨目的からすると違うと考えるをえないのではないかと。これ我々も同感です。そして、当時の会長さんはですね、「サウンディング型市場調査の対象となってるエリアが男女共同参画センターの建物の中で広範囲に渡っており、心配される部分がある」と。「色々ご心配の市民の声が私のところにも届いている。ぜひそういう皆さんの声に耳を傾けるような手順を踏んで今後ご検討をお願いしたい」と発言をされました。で、さらに最後にですね、わざわざ次にように強調されてまして「SDGsにあるジェンダー平等の実現は、17の目標の1/17ではなく、全ての課題の目標達成に欠くべからざるテーマと明確に書かれている。京都市の条例に記載されているように、今後も国際スタンダードに沿って京都市の男女共同参画を推進していただきたい」と。こういうご意見を述べられているわけですね。で、ちょっと改めて聞いておきたいんですが、こういう男女共同参画審議会での、こういう専門の先生方のご意見はどのように受け止めておられるのでしょうか。

（→工藤・共生社会推進室長）そういったご意見があることも当然承知しております。で、今回色々方向性を示させていただく中でですね、男女共同参画推進センターの機能強化という視点は当然持っております。で、その中におきましては、検討する中でですね、やはり今のこの事業体制が効率的なものになっているのか、効果的に事業が行われてるのか、それは施設の稼働率なども含め

てですね、しっかりと見極める必要があります。で、そういったことはですね、審議会の委員さんのみならずですね、やはり色々施設の職員さんであるとか、そういったところのご意見も、ご意見と言いましょか、その状況をお伺いしながら、やはり効率かつ効果的な運営というところでの施設のレイアウトっていうのはやっぱり一定必要であろうかというふうに思ってます。その中で活用できるようなスペースがあるのであれば、そこに民間事業者の活力を導入して、さらに賑わいを創出していくということですね、何ら施設の今後の運営を考えた上で、問題があるものではないというふうに思っております。

◆やまね副委員長（共産） すいません、今あの「施設の職員さんのお話」っていうんですかね、そういうお話あったかと思うんですけど、そういう方にもお聞きして活用できるスペース考えていくというようなお話だったかなと思うんですが、今回例えば、先ほど、どなたかの委員の質疑の中で「図書情報室」の話ありました。で、あるいは子ども相談室とかもある、いろんな専門的な施設あるわけですね、スペースが。そのことについて、このウィングス京都で働く職員さんに対して、「ここはもう民間活用してもいいですか」というお話をされたということなんですか。意見を聞かれたんですか。

(→工藤・共生社会推進室長) そういった内容では聞いておりません。今の事業運営を行う中で何かと不便とかですね、あのかかっているようなところははないのか、そういった視点でお伺いしております。

◆やまね副委員長（共産） はい分かりました。それから昨日12月24日に男女共同参画審議会、開かれておりますが、そこでは本日審議する内容というのは報告をされて、専門家の皆さんからご意見は何っているんでしょうか。

(→工藤・共生社会推進室長) はい、まず本日もご提示させていただきました報告資料につきましては、この後速やかに審議会の委員さんに共有をさせていただいて、それに対する意見もお伺いしたいというふうに思っております。

◆やまね副委員長（共産） えっと、昨日は報告はされてないということですね、ですから。そしたら、今日のこの議論の中身をお渡しする、報告するということなんですけど、それはまた審議会で開いてしっかり議論されるんでしょうか。

(→工藤・共生社会推進室長) はい、次の審議会を待ちますとちょっとまだ日程は今後の調整ということになりますので、まずは今日の資料に基づいて情報共有をさせていただいて、ご意見をいただくということが基本かなと思っております。

◆やまね副委員長（共産） 私やはりですね、審議会ですっきり議論していただかないとね、だめだと思うんですよ。ウィングス京都の今後の方針案を、男女共同参画審議会の先生方に報告もせず、意見も聞かずにこの案をですね、作成してるということ自身が、私、大変問題ではないかと思っております。

それで3ページの資料「4、サウンディング型市場調査後の検討状況」についてなんですけれども、そこでは(1)として「賑わい創出のスペースや、これまで利用の少なかった世代のアプローチにつながる親子が集える空間などの具体化について、引き続き事業者と意見を交わしながら検証を継続」というふうにあります。そこでちょっと確認したいんですけども、「事業者と意見を交わしながら」というのは、具体的に何社と意見を交わしているのか、これが一点。それからもう一つは、その事業者はサウンディング型市場調査で提案を出した不動産業者、コンサルタントh業者、サービス業、あるいは建設業など、こういう民間業者6社のうちのどなたか、そういう事業者

なのか、それとも提案をした事業者とは全く別の事業者なのか、この辺りいかがでしょうか。

(→工藤・共生社会推進室長) はい、事業者との対話につきましては、ちょっと何社ということは申し上げられません。複数社としております。

で、今回のサウンディング型市場調査の募集要綱の中にも「調査後も引き続き対話を続ける」という、対話についてはやっていくということで内容に盛り込んでおりますので、それを含めてしております。で、中身につきましては、事業者のノウハウ等に関わるものでありますので、その辺りを差し控えさせていただきたいと思っております。

◆やまね副委員長(共産) 複数社あると。しかし何社かは申し上げられないと。これはなぜですか。

(→工藤・共生社会推進室長) はい、やはり6社ということで限られておりますので、おおよそどこどこってところがですね、特定されるというところもございまして、そういった意味で複数社ということでお伝えさせていただいております。

◆やまね副委員長(共産) 別に企業名を出せとか言ってるわけじゃないんですけれども、何社か数とか、業種ぐらいのことは言えないんでしょうか。

(→工藤・共生社会推進室長) はい、やはりあの業種によって持ち合わせてるいろんなノウハウ等もございまして、その辺りは差し控えさせていただきたいと思っております。

◆やまね副委員長(共産) はい、それで(2)のところにしても聞きます。「施設の稼働状況、施設の老朽化への対応や、ウィングス京都の効率的かつ効果的な事業運営につながるレイアウトのあり方についても検討継続」とあるんですけど、こ

れはちょっと主語が書いてないんですけど、これ誰が検討してるのかですね。京都市なのか、事業者なのか、それとも市と事業者と一緒に検討してるのか。いかがでしょうか。

(→工藤・共生社会推進室長) はい、民間事業者からもご意見をいただきつつ、京都市の内部で検討は進めているというところでございます。

◆やまね副委員長(共産) えっと「民間事業者からご意見をいただきつつ京都市の内部で」ということなので、それは「京都市が検討してる」ということで確認してよろしいですか。

(→工藤・共生社会推進室長) はい、元々サウンディング調査の中では、1階のスペース、あと2階の一部ということでお示ししておりますので、そこを最大値として検討は内部でも行っているというところでございます。

◆やまね副委員長(共産) それでですね、この施設の稼働状況、レイアウトを検討するという時に、どういう方向で検討してるのかですね。先ほど施設の稼働率のお話をさせていただきましたけど、4階のスポーツルームや会議室、地下1階の会議室、音楽室、フィットネスルーム、もうフル回転に近い稼働率となっております。ですので、もっと使いたいけど予約がなかなか取れないとか、そういう方もおられるんじゃないかと思えます。で、そういうこと考えた場合に、1階や2階部分にそういうスペースを充実させるということも考えられるんじゃないかと思えますし、そういうことも含めて検討されてるのか。それともですね、とにかく稼働率が全室平均下回ってる部分に民間施設呼び込みたいというような、そういう検討されてるのか。このレイアウトの検討って言った時にどういう方向性でもって検討されてるんでしょうか。

(→工藤・共生社会推進室長) はい、今回の検討の方向性としましては、レイアウトのみならず、事業という中身も非常に重要視しております。そういう点ではちょっと何度か申し上げておりますけども、ウィングス京都のですね、より効率的効果的な運営につながるものがどういったことか、そういった視点であるとか、現在の貸館機能と昨今の市民ニーズに関する視点、その辺にアンマッチが生じていないかというところがございます。で、その他ですね、多様な方々が交流して、施設全体の賑わいの創出に向けてどういったものがあるか、そういった視点もございます。で、合わせて男女共同参画等に資する機能の充実に関するもの、こういったものをですね、総合して検討を進めているところでございます。

◆やまね副委員長(共産) はい、ま、ちょっとね、ですから市民の皆さんから見て、何を検討してるのかよく分からないですよ。先ほど事業者はどういう議論してるんだと聞いたらそれ明らかにできない。大変不透明なね、私は状況だと思っています。

資料3ページ「5、利用者ニーズの状況」のところですけども、これ今年8月6日～9月30日、55日間にウィングス京都、利用された方を対象にアンケート取ったってことなんです。これアンケートの回答件数、何件かですね、これも件数書かれてないわけですね。全然。で、この結果は公表はされているのでしょうか。それから資料には主な回答内容しか書かれてないわけですけども、アンケート項目とその結果の全てを資料提出いただきたいと思います。本来ならですよ、私は本来なら、委員会審議の資料として、これ出していただかないとダメじゃないかなと思うんですが。この点、資料をいただきたいと思いますがいかがでしょうか。

(→工藤・共生社会推進室長) はい、先ほど江村議員からの要求資料とも類似するかと思いますの

で、そちらと合わせて、はい提出させていただきます。

◆やまね副委員長(共産) えっとすみません、件数は何件か。で、現時点で公表は、結果公表はされてるのかどうか。いかがでしょうか。

(→工藤・共生社会推進室長) はい、こちらの件数は82名ということですね。それで公表のほう、あ、ちょっと待ってください、えっと、公表のほうはしてありません。

◆やまね副委員長(共産) はい分かりました。それからあと同じページの「6、京都市男女共同参画市民意識調査」。これは今年10月18日～11月6日の20日間です。で、これもですね、回答件数も書かれておらずパーセンテージだけなんですけど。これ何名から回答が寄せられてるのでしょうか。

(→工藤・共生社会推進室長) こちらの市民意識調査につきましては963名が対象となっております。

◆やまね副委員長(共産) 委員会資料に載ってるこのアンケート項目を見ますと、「これまでウィングス京都利用したことがあるか」、そして「ウィングス京都を利用しない理由は何ですか」と2つですけども、ところがですね、これは私、京都市のホームページで、この意識調査の調査票を確認したら、「ウィングス京都を利用された際どのように利用されましたか」という項目もあるんですね。で、「相談事業」「図書情報室」「男女共同参画に関するイベント参加」「それ以外のイベント参加」「貸会議室の利用」「その他」ということを、項目聞いてるわけですよ。で、これはね、ウィングス京都が果たしている役割つかむ上で大変重要な質問されてると思うんですけど、なぜ今回の委員会資料から省いておられるのでしょうか。

(→工藤・共生社会推進室長) あの、今回の報告の中での文脈につきましては、どれだけのほうがすね、ウイングス京都の認知されているか、親しみを持って利用されているかっていうところで、中心に書かしていただいて、ま、特段の意図はなく、そういう視点で書かしていただいたということでございます。

◆やまね副委員長(共産) 特段の意図がないんだっとなぜ省いたのかってということになりますよ。その3つしか聞いてないんですから。ウイングス京都については、で、どれだけのほうが知ってるか、ここに示されてるのを見たらすね、もう誰も知らなくて誰も使ってないような回答じゃないですか。この結果だけ見たら。私はすね、本当にこの委員会審議における資料も非常に恣意的で、わざわざこういうところを省いてね、資料を作っておられる、数字の見せ方についても非常にね、私は偏ってるんじゃないかなというふうに思っています。議会に対しても市民の皆さんに対しても非常に失礼な話ではないかと申し上げておきたいと思えます。

で、私、もう少しだけお聞きしますが、不思議に思ってるのは、今回の委員会資料にはすね、困難を抱える女性の支援に取り組まれている団体、あるいは女性団体の皆さんの意見とか要望などがすね、あるいは専門家の先生方の意見が、何も示されてないわけですすね。今回のこの案をまとめるにあたって、そういうNPOや女性団体の皆さんからの意見聴取というのはされていないのでしょうか。いかがでしょう。

(→工藤・共生社会推進室長) はい、「ウイングスの方針をこう考えます」というような形での聴取はしておりませんが、当然、お付き合いの民間団体、その事業をされる中での課題であるとか、連携方策、そういったことは常々聞いておるところでございます。

◆やまね副委員長(共産) 私はやはりそういう使っておられる方の団体さんから、ウイングス京都がもっともって魅力的になるためにはどういう機能が体制が施設が必要ですかということは、きちっと聞き取りもヒアリングもされて、で、この委員会に示してすね、そして議論をやっぱりさせていただかないといけないのではないかとというふうに改めて思います。

で、結局すね、男女共同参画審議会にも声を聞いていない、女性団体にも声を聞いていない、私、市民アンケートについても大変不十分だと思っておりますが、そういう中で今回の結局議論の中ですすね、女性支援やDV支援、あるいは男女共同参画推進のために何を強化するのかという話がすね、一切ないんですよ。で、結局聞いているのは不動産とかコンサルとか建設業者のサウンディング調査やってこういう案が出てますと、そういう声ばかりですすね。私はこれ一体何をやっておられるのかなと率直に思ってるんですすね。

で、「7、今後の検討状況」、4ページですけども、そこではすね、(1)のところで「男女共同参画社会をより一層推進していくためには」ということで、その結論で「前例に捉われない、民間事業者の自由な発想やノウハウ等を積極的に取り入れる」と。さらに(2)では「賑わいを創出するとともに」とあるんですけど、賑わいを創出することが男女共同参画社会の推進にどうつながるのでしょうか。いかがですか。

(→工藤・共生社会推進室長) あのまず大前提として、報告にもあります通り、利用年齢層が偏りがある、というか、高年齢層が利用されたのが問題というわけではなくて、若年層の利用がないってところがやはり課題であるというふうに認識しております。そのような中ですすね、若者、先ほど議員からも10代の方なかなか利用しないよねというようなこともありましたけども、やはりそういった方々を利用していただくためには、施設が分かりやすく、認知しやすく、入りやすいものにしていく必要があると思っております。

で、そのような中ですね、なぜ若年層にそういった来ていただく、行きたいと思っているかで申し上げますと、やはり男女共同参画であるとかそういった知識はですね、やはり若い世代のうちから認識していただいて、そのことによって社会に出られた時に大きな影響を及ぼすというふうに考えておりますので、そういった、ちょっと気の長い視点にはなりますけども、そういうところも含めて、賑わいは、そういった若い世代の取り込みというところにつながる一つの手段ではないかというふうに思っております。

◆やまね副委員長（共産）あの、ウイングス京都っていうのはすでに複合施設ですよ。音楽室もあるしスポーツルームやフィットネスルームもあって、中央青少年活動センターもあって、若者サポートステーションもある。だけど若者の利用が少ないんだしたら、私、民間の施設持ってこようが何しようがあまり変わらないんじゃないかなと思ってるんですね。

で、賑わいを創出することがなぜ男女共同参画の推進につながるのかってのは、やっぱりね、私さっぱり分からないんですよ。で、例えばですよ、女性支援だとかDV支援だとかで言うと、非常にデリケートでね、プライベートに配慮しなければいけないケースがたくさんあると思うんです。で、そうした方々がやっぱり求めておられるのは、静かで落ち着いた場所であったり、あるいはプライバシーが絶対守られる、そういう安心感だと思うんですけれども、例えばこれまで利用していない人を呼び込んでいくとかですね、賑わいを作ることで、ちょっとうるさくなってしまっただすね、相談がしにくくなったと、相談できる場所が減ってしまったとなってしまうのは、なっただすよ、私は本末転倒な事態になりかねないんじゃないかということをお慮します。

で、私は、女性支援法が施行された元で求められるのは賑わいを作ることなんだろうかと。そうではなくてですね、やっぱりウイングス京都が持つ専門性・公益性・公共性、これをいかに高めて

いくか、そのための体制強化をいかに進めていくかと、やっぱりそこが考えられるべきではないかと思っております。例えば、女性相談支援員も市全体でたった2人しかおらず、それも兼任と聞いております。で、他の自治体に行きますと各福祉事務所や区役所ごとにですね、複数名そういう方々が配置されてるところもありますし、男女共同参画センターに配置してる自治体も当然あると。で、京都市でもですね、私はそうした体制強化進めていただきたいと思ってるんですが、このウイングス京都の今後の方針を考える時に、そういう相談は今されているのでしょうか。

(→工藤・共生社会推進室長) はい、もちろんウイングスにおきましても、お困り事を抱えた女性の相談には応じております。男性もそうでございます。で、合わせましてですね、ウイングス京都の機能としましては、もちろん相談機能がありますけども、なかなか具体的な個別支援ってところの機能等を特化したものではございませんという意味では、今般7月に立ち上げました「ミニト」ですね、そういったところではしっかり個別支援を行って、寄り添い支援を行うというもとで、しっかり役割分担をする、さらに民間の支援団体とも連携してそれぞれの持つ強みの中で女性支援を行っていくということで考えておりますので、ウイングスにおいて全てをやり切るという想定ではございませんし、いろんな相談の層がございます。先ほどなかなかうるさいとこであってというようなことももしもあろうかと思っておりますけども、もう少し軽い段階で気軽に相談されたいというような方もいらっしゃると思いますので、その辺りはどこに平均値を置くかということはあるんですけども、しっかり関係機関との役割分担のもとでしっかりと支援を行えるようにしていきたいと思っております。

◆やまね副委員長（共産）ごめんなさいちょっと聞き逃してたら申し訳ないんですけども、ウイングス京都の今後の方針を考えるにあたって、女性

相談支援員の体制を強化するということは考えておられるのか、そういうことも含めて議論をされているのか、ちょっともう一度お答えいただけますか。

(→工藤・共生社会推進室長) 必ずしも現状の体制の中で相談ができていないということは思っておりませんので、今後さらに法改正、さらに相談の深刻度、いろんなニーズが出てくるということがあればそれに応じて体制などは考えていく必要があるかと思っております。

◆やまね副委員長(共産) 私はこれはもうぜひとも考えていただきたいと強く要望しておきたいと思います。

で、最後にもう一つだけ。ウィングス京都の指定管理団体・公益財団法人京都市共同参画推進協会さんがですね、こういうカラーの冊子を作っておられて、これ「ジェンダーハンドブック」ということで出しておられて、私はこれ読ませていただいて本当に分かりやすい、読みやすいものを出しておられるなと思って、これは令和6年1月、今年の1月に改訂されたバージョンの表紙になるんですけども、「必ず知ってほしい」とても大切なこと 性的同意」ということで、今社会的にも、大変、大問題になっていることですね、重要なテーマだと思えます。で、しかもこれ、関西の大学生有志の方と協会さんが共同で作成したということで、こういう素晴らしい取組を行っているんだなと改めて勉強になったんですが、この冊子はですね、今何冊ほど発行されているのかっていうのは分かれば教えていただきたいのと。

で、私は、本当に若い人たちをこのウィングス京都もっと利用して欲しい、それは私たちも同じ気持ちです。で、じゃあどうやって使ってもらえるのかって言った時に、例えばですね、こういう冊子をですね、全ての中高校生、大学生に届けて、「何か困ったことがあればウィングス京都に相談してください」というようなね、そういう取組をやってですね、10代20代の若者の利用を

増やすと、こういうことも今後考えていくべきじゃないかなと思ったんですけど、その点はいかがでしょうか。

(→工藤・共生社会推進室長) すいませんちょっとお恥ずかしながら何冊発行っていうの、ちょっとお手元に持ち合わせておりせんので申し訳ありません。

もちろんこの冊子に限らず、学生さん向けの講座というところもウィングスでやっておりますので、冊子はお届けするのはもとよりではございますけども、しっかりその研修とかの活動の中でですね、そういう学生さんにも知っていただくという取組はしていきたいと思っております。あ、すいません、冊子につきましては1万7000部を年2回、3万4000部っていうことになります。はい。

◆やまね副委員長(共産) なるほど、大変頑張っていたらと思います。で、ただやはり大学生だけで15万人近い学生さんがおられるわけで、中高校生も入れればその数には全く届いていないと思いますのでね、こういう本当に素晴らしい取組をぜひ若者に京都市の側からどんどんアプローチしていくような取組に力を入れていただきたいと思えますし、ウィングス京都を魅力あるものにしていくためには、ぜひともその専門性の強化を図っていくことこそ京都市の責任であるということ、改めて求めて終わります。以上です。

◎井上委員長(自民) /ただ今やまね副委員長のほうから要求のありました「利用者ニーズのアンケート結果とその内容の資料」については理事者提出できるということですので、委員会資料として提出を求めることにご異議ございませんか(異議なしの声) はい、ご異議がございませんので委員会資料として提出を求めることに決定いたします。理事者におかれましてはなるべく早く提出していただきますようによろしくお願いいたします。

◆湯浅委員（公明）私のほうからもよろしくお願
いしたいと思います。今ですね、3人の方が質疑
をされてました。で、それも伺いながらなんです
けども、まずですね、この施設の利用状況という
ことで、コロナの時も入ってますのでね、まあこ
ういう数字で持ち直してきてるとのことなんです
が、この（2）のですね、今もありましたが、
「40代以上の利用が全体の80%」と。で、これ
は利用者アンケートということで6年の8月～9
月で実施された分だということですよ。で、こ
こにはですね、この男女共同参画センターとそれ
から青少年センターがありますよね。で、この利
用者層って言うところですけども、これは中央青
少年活動センターの利用者にも取ったという理解
でいいんでしょうか。

（→工藤・共生社会推進室長）はい、こちらにつ
きましては、男女共同参画センターの窓口のほう
で取っておりますので、青少年活動センターの利
用は含まれないということになります。

◆湯浅委員（公明）ということはですね、次の利
用状況なんですけどね、スポーツルーム97%と
かね、なってるんですけど、これ4階って青少年
センターですよ。違いますか。

（→工藤・共生社会推進室長）はい、こちらのル
ームのほうの管理につきましては、男女センター
と青少年活動センター、両方の管轄ということに
なっております。

◆湯浅委員（公明）ということは、これね、いや
分かりませんよ、別に疑うわけではないんですけ
ど、10代20代が全然なくて、スポーツルー
ムはほぼ100%毎回使われてるということは、ち
よっとね、このアンケートだけが独り歩きして
「青少年が少ない」というのはちょっといかがな
もんかなというふうに思うんですよ。だからもう

少しね、そこのところは結論急ぐ必要はないんじ
ゃないのかなと。で、「青少年センターの環境も
生かしきれてない」というふうに断言されてます
が、そうなのかなというふうには、率直、素直に
疑問に思ってます。もうちょっとどうかなって
いうことがありますね。

それからあとイベントホール、これ37%、直
近5か年平均、これもコロナ禍含んでますから、
当然こういったこともあるだろうと。あの当時は
イベントできませんのでね。ところが今の予約状
況を見ると8月まで満杯なんですよ。予約ができ
るまで。で、我々もふれあい文化センターとか文
化会館とかね、右京区で取れませんか、なかな
か、イベントホール。だからこれもちょっとどう
なのかなというようなことがね、あのホント取り
たくても取れないんですよイベントホール。だか
らこういう数字が出てくるって言うことだけで
は、少し、もう少し深掘りしてもいいんじゃない
かなというふうには思いますね。

それからあと、この男女共同参画センターは、
男女共同参画推進協会が指定管理ですよ。で、
青少年活動センターのほうはユースサービス協会
さん。で、今のお話ずっと伺っていると、この指定
管理者さんたちは何をしてるんかと。皆さんが議
論されてる中で、本来この方たちもその指定管理
者になる時にはいろんな事業のこととかも、当
然、指定する時に審査してますよね。だからこの
絡みはどうなってるのかなと。で、京都市とこの
男女共同参画推進協会との絡み、それからユース
サービス協会との絡み、また、この男女共同参画
推進協会とユースサービス協会の絡み、協力・連
携体制、この辺はどうなってるのかなということ
も、ずっと議論聞いててちょっと思いましたです
ね、何かいっぱい言いましたけど。

まずこの出されてる、基本、男女共同参画セン
ターとしての基本は守ると、いうことはもうこう
書かれてますので、「ウィングス京都の優れた機
能を維持しつつ」と。「男女共同参画社会をより
一層していくため」と。これはもう維持をする
と、いうことで明確にさせていただいております

ので。ところがこの後の部分ですね、若い世代の本当にどこが使っているのかどうかというようなことについては、このアンケートだけではちょっと心もとないのではないかなというふうに思うんですが、この辺のところはもう一度どう考えてらっしゃるのか伺えればと思います。

(→工藤・共生社会推進室長) はい、湯浅議員、大変ご指摘いただきましてありがとうございます。確かに稼働率ということで数字は出しておりますけども、ご指摘にありましたように、4階のスポーツルームは両施設で担当してるというように、ご指摘の内容につきましてしっかり数字は数字として分析をしっかりすべきではないかということのご指摘だと思いますので、その辺りはもう少し詳細見ていかなければいけないというふうに思っております。

で、本当にまさにおっしゃる通りかなと。ここは運営としては指定管理者として、各センターのほうに指定管理として運営をしていただいておりますので、そこの法人としてまずこの施設をどうしていくのかというのは当然考えるべきものだと思います。ただ、その中でですね、施設を所管します京都市として、まず大枠ここの全体をどういう形で運営してもらいたいかなというその大枠をまず示した上で提案をいただくということになりますので、そこを全て民間さんと言いますか、指定管理者の方に主体的に考えてくださいということにはならず、一定ご意見も運営状況もお伺いしながら、しっかり京都市として責任を持って考えていく必要があるのかなと思っております。その点につきましてはユースサービス協会も同じであると思っております。

で、合わせて、両団体の連携につきましては、定例の会議等でですね、交流はしていたりとかですね、研修の中で一部関係はされているというふうにお伺いしておりますけども、積極的に常々交流を行って、若者支援であったり男女共同参画、そういったのが双方向で何かされているかという

と、その辺りはまだ充実できていないということということで認識しております。

◆湯浅委員（公明） 確かにその指定管理者に全部任せるんじゃないなくて、やっぱり現実そこで事業されておられますので、やっぱりそういったことはしっかり参考にもしていただきたいし、意見も聞いてもらいたいなということで、分かりました。もちろんそれ京都市が方針を示した上で指定管理するわけですから、それで結構かというふうには思います。

ただやはりこの、また話戻すようですが、今後の方針ということなんですが、やっぱりちょっとね、はっきりまだまだ見えてこないっていうか、もちろんこれからもんでいくってことだと思うんですが、まさにこの「男女共同参画社会のより一層の推進」「相談事業」「イベント」「貸館」、どこにこう何て言うのかな、特色を持たせようとしてるのかというようにところが、どうもバクツとしてて、今のこの2枚の資料ではですね、なかなか私も判断が、どういうのが一番いいのかなっていうのがつきにくい。やっぱりこの男性女性の共同参画ということが一番大きい、それから公的な施設であると、この線は崩れないというふうには思ってるわけですけど、ちょっとその辺のところをね、今後2月で予算出してくるってことなんで、やっぱりそこでも審議しないかんわけですけど、ただ単にサウンディング調査の予算ですというようなことではちょっと済まへんやろうなというふうに思いますから、やっぱりこういう方向性っていうものを、もう少し明確にさせていただいたほうが、予算に向けてもいいんじゃないかなというふうに、これもう申し上げとくだけで特段お答えをいただくことではないと思うんですが、ちょっと今気になった点をいくつか伺いましたので、また参考というか、検討の材料にさせていただければ大変ありがたいかなと思います。以上終わるときま